京都市小規模保育協議会

新型コロナウィルスに関する緊急アンケート（概要版）

（ver1.2）

（総括）

本アンケートは 2020 年 2 月 27 日に安倍総理大臣より発表された「全国一斉休校の要請」以来、自園を含む小規模保育事業所（以下小規模園という）より、多数相談を受けたために緊急で実施をした。回収結果を考察する中で、特に小学生を子に持つ子育て中の保育士と、それを雇用する事業主の苦労がみえる。また、職員を確保しながらも感染拡大防止に努める中で、小規模園が故に絶対人数が少ない中での人員確保や除菌の徹底、職員の体調管理や保護者対応などに対して、管理責任者が神経をすり減らしている様子を伺いしることができる。特に「感染が発生した場合の閉所」と「発生は施設の責任とする風評被害」は全ての園に共通する不安である。京都市小規模保育協議会としては、今できることの中でも最優先事項として、ネットワークを使った課題の共有と、できる範囲での相互支援、そして、小規模園の現状を内外に広く伝えることであると考えた。新型コロナウィルスの猛威は今もなお続いている最中ではあるが、本アンケートにより鮮明になった課題や本来するべき対応が、今後同じようなケースが発生した場合の小規模園の運営に役立つことを祈念している。

小規模保育協議会代表　　長谷川　裕

アンケート実施期間：2020 年 3 月 11 日～3 月 14 日
アンケート対象：京都市小規模保育協議会　会員園（小規模保育事業事業者）
有効アンケート回答数　21 園　（無効２）
アンケート回収方法：インターネット回答 19 園、FAX 回答 2 園

アンケートの取りまとめ文責
京都市小規模保育協議会　代表　　ぽにぃ保育園　長谷川　裕
アンケート問い合わせ先：
ぽにぃ保育園
住所：606-0015　京都府京都市左京区岩倉幡枝町 585-5
電話：075-721-7680
メール：ponykyoto@gmail.com

1-1 新型コロナウィルスに関わる自園の課題は何ですか？

① マスクなどの物品の不足

（ア）マスクやアルコール類の衛生用品について、施設としてある程度ストックはしているものの、備蓄数にも限りがあり、現状としては在庫を鑑みて使用している状況である。これに対して、京都市はマスクの配布を行ったが全く足りていないため、今後保育施設の衛生環境を維持するうえで支障が出てくる恐れがある。

② 保護者に対する対応

（ア）京都市からの文章を手渡ししても、仕事を休んだりして家庭で保育をするという方は少ないようである。この背景には、保護者の危機意識の問題がある。（アンケート 1-5　参照）

③ 職員体制

（ア）当初学校が休校になり小中学生のこどもを持つ保育士の出勤が危惧された。実際は仕事を持つ親については学校で自主勉強という形をとっているものの、これを利用するか否かに関しては各個人が悩んでいるという現状もある。理由としては「できるなら我が子を休ませたい」「学校の管理が厳しい」などさまざまである。その結果、子育て世帯の職員が欠勤や時短となり、シフト体制に影響が出ている。

（イ）また、通常状態よりも検温や記録などの作業が増えているため業務が増え、職員への発熱などの体調不良症状への対応にも悩んでいる。

④ 拡大防止のために職員への自粛と施設の消毒

（ア）自園から感染者を出さないために、各園注意喚起と自己努力を続けている。特に京都市で発生した南保育所における園児への感染は直接的な閉鎖はもちろん、その後の風評被害という面で、各施設長は事態重く受け止めている。

（イ）アルコール類の散布の回数を増やしたり、場所を広げたりと、通常よりも広域で多数回の殺菌消毒をすることで保育室の衛生環境保持に努めている。また保護者を保育室にあげず、玄関での受け渡しをしている園もある。

1-2 その課題の原因は何にあると思いますか？

① 一斉休校に関連すること

（ア）緊急的な対応という事で、全国の小中学校の一斉休校が急に決定したことで、現場での対応に負荷が生じた。

（イ）また、小学校と保育施設の対応が休校と開所とズレたことにより、子育て中の職員に出欠に影響が出た。

② 保護者に認識に関すること

（ア）連日報道が流れているが、保護者の中でも危機感はマチマチである。

（イ）社会的に気軽に欠勤できない風潮である

③ 文章通達の量の多さと表現

（ア）文章通達が多すぎで、重要な部分が埋もれてしまうことが懸念される。（貼り出しや配布をしても量が多すぎることに加えて重複も多く保護者はすべて読むわけではない）

（イ）表現が曖昧であり、自園で詳細について対応しなくてはいけない（禁止と自粛と努力がわかりにくい）

④ 休業への補償が不明確

（ア）仕事を休むと収入が減るため、できるなら休みたくない保護者も多い

（イ）保育士にとってもそれは同じ悩み

⑤ 備蓄品は何が必要か、どのくらい必要か、想定が甘かった

（ア）災害などに備えた備蓄品は各施設が適正量を判断して保存しているが、量に関して特に決まりがない。

1-3 新型コロナウィルスに関して京都市に要望したい（又はしたかった）ことはありますか？

① 保護者への注意喚起を具体的に（強制力を持って）

（ア）自粛の要請や当園の目安など、京都市が責任を持って明確に保護者に説明をしてほしいという意見が多数寄せられた。

（イ）また、保護者への情報量が多すぎてわかりにくいという「情報過多」も起こっている。

（ウ）南保育所で発生した保育者から園児への感染を見ても小学校と合わせて休園した方がよかったのではないかという意見もある

（エ）また保護者のみならず、企業への自粛呼びかけも実施してほしかった（もしもしているならば、施設としてはそういった情報を把握していない）

② 物品の配布

（ア）ある程度の備蓄はあるにせよ、想定を超えた事態がおこった時に、流通がストップするために、各園とも同じものが不足する。

（イ）これに対して、京都市も一定量を備蓄し、有事の際はこれを配布する準備をしていただきたい。

③ 認可保育施設に通う子供だけではなく、幼稚園や認可外保育施設、インターナショナルスクールなどすべてのこどもに対して同等の補償やバックアップをしてほしい

（ア）特に企業主導型保育施設については、同じ保育施設にも関わらずマスクが供給されなかった。

④ 施設の休園措置

（ア）園を開所するにあたり、感染発症のリスクを園が持っている。

（イ）万が一発生した場合の京都市としてのバックアップを具体的に示してほしい

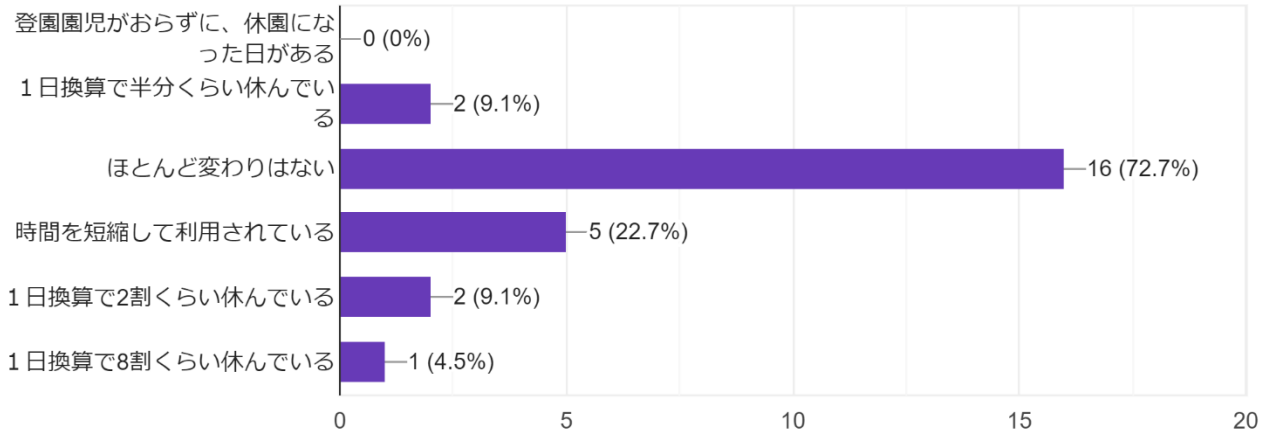
1-4 新型コロナウィルス拡大防止のため、自園で取り組んでいることについて教えてください

手作りマスク、掃除の回数を増やす、発熱の際にすぐに迎え要請、午睡時間に各部屋を消毒、出入り口に消毒液を設置、行事の自粛、職員会議の自粛、職員も毎朝検温、観光客が多い場所への散歩を控える、職員の行動規制、遊具の消毒、掛札先生のホームページを参考に（＊１）、保護者は保育室に入らず入り口で引き渡し、遠足の中止、職員や園児の行動を把握、

（＊１）京都市小規模保育協議会では３月に「危機管理」をテーマに研修を行う予定であった。残念ながら、コロナウィルスを理由に研修会を中止にしたが、講師でお招きする予定であった「保育の安全研究・教育センター」掛札先生から保護者への注意喚起の文例を提供いただいた

1-5 家庭保育協力を求めた結果園児の登園はどのように変わりましたか？

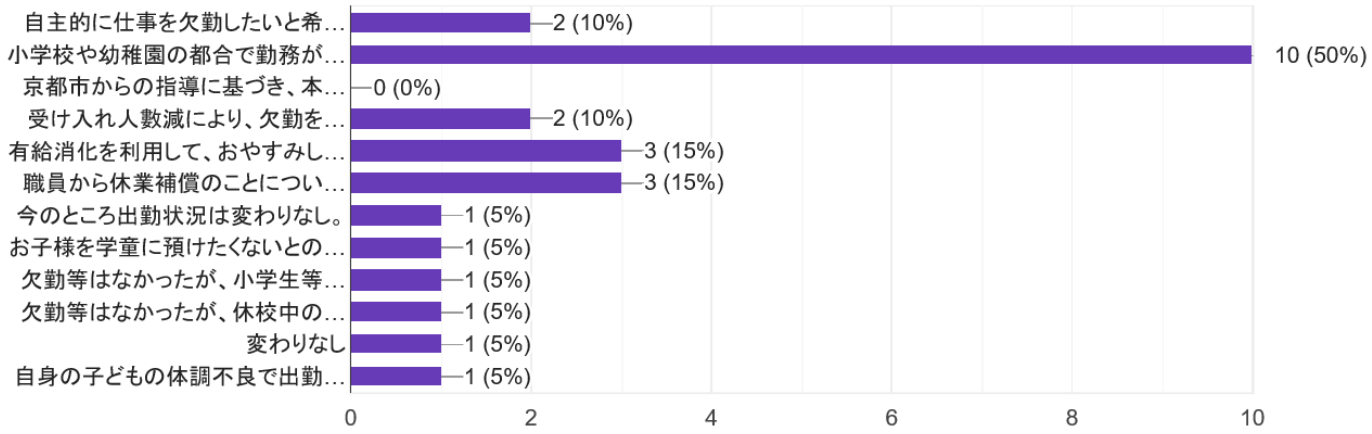
22 件の回答



1-6 保育士を含む職員について当てはまるものを選んでください

- [ ] 自主的に仕事を欠勤したいと希望があった
- [ ] 小学校や幼稚園の都合で勤務ができなくなった
- [ ] 京都市からの指導に基づき、本人の体調不良等で出勤ができなかった
- [ ] 受け入れ人数減により、欠勤を促した
- [ ] 有給消化を利用して、おやすみしてもらった
- [ ] 職員から休業補償のことについて相談があった
- [ ] その他...

20 件の回答



【意見交換】今後この状態が続いた場合、園にはどのような影響が出てくるでしょうか？

（原文をそのまま記載しました）

もし、感染が出たときの風評被害が怖い。

公共の交通機関を使っている職員や保護者から感染しないとも言えないので、ますます過敏になる。

職員が体調を崩し業務ができなくなってしまう。

万が一自園で感染者が出た場合に、風評被害に合わないかが心配。

いつまで続くかわからない分、次年度の行事が立てられない。

マスク・アルコールの不足

万が一感染の疑惑（熱が 37.5℃ある等）の職員が出た場合の配置基準の不足

保護者に熱があり、園児は問題なくても休んでもらう場合、どこまで協力してもらえるのか"

子どもの人数が減ったことで非常勤の先生をお休みにしたり時間を短くしたりした。いつもより出勤時間が減ると先生の収入が減る。

誰が感染してもおかしくない状況である。休園もあると考えている。

状況によっては保護者への協力休みの強化。

職員出勤数を考えないといけないかもしれないです。また給食やおやつ提供についてお弁当協力をお願いする事があるかもしれません。コロナを出した場合の対応や風評被害、地域への対応などどう考えたらいいのか、、、心配です。

今一番困っている消毒やマスク等の確保がますます難しくなるのと、園児や職員の不安やストレスが高まるなど。

今のところ分からない。
小学生等の家族がいる職員は、子どもたちへの対応への不安が募ってくる。その事により、場合によっては欠勤等へもつながり、職員不足の事態にもなりかねないと思う。
園外保育や行事が自粛されるので、子どもに対して十分な保育や経験をさせてあげられない。
感染者が出て、それが一般化する
非常勤常勤を含めて、小学生をもつ保育士が多くいることにより 11 時間保育の保障を考えることは保護者の協力がなければできない
情報の収集が遅くなってくると対応策がごてごてする。
特になし。
誰が感染してもおかしくない状況である。休園もあると考えている。
今の状態はほぼ通常通りで、この状態が維持できればあまり影響はない。
この話題に関する自由記述
「保護者からは開園して頂いてありがとうございますや、卒入園式の縮小開催についても温かいお言葉をもらう反面、家でこれ以上子どもを見ることはできませんとあからまさにお言葉を頂戴する事もあります。保護者も子どももストレスでとてもしんどいように思います。私たち事業主も保育士も同じだと思います。皆さんの園ではどうされていますか？
過剰になりすぎず、正確な情報をもっと流してほしい。
うちは最初から家庭保育協力は求めていません。国の補助金に関しては京都市がもし手を挙げていないのであればちょっと納得できないかもしれません。どんな理由で京都市が国からの補助金を使わなかったのか説明を求めたいです。
ほかの園の状況が知りたいです。

＜＜京都市小規模保育協議会について＞＞
■会の目的
全ての子ども達の権利と発達が保障されるような保育環境の充実を目指す活動

■活動内容
京都市の地域型保育事業者が情報を共有し、保育の質の維持向上を図る
運営に関する疑問・問題解決等に対して意見交換し 事業者が学び合う

平成 27 年にスタートした地域型保育事業者が、保育の質を向上するために有志で集まっている団体です。小規模保育ならではの問題や課題をシェアすることで問題の解決や提示し、小規模保育園に通うこどもたちの権利を発達が保証される保育環境の充実を目指し活動をしています。

■２０１９年度 役員
代表　（１名）　　長谷川　裕
副代表（１名）　　森脇　　充佳
会計　（１名）　　川島　史子
事務局（１名）　　中林　高陽

■ホームページ
https://www.kyoto-syokibohoiku.org/